

## 点字板

作詩：鈴木美緒（神戸市・17歳）

点字板との出会いは小学生のとき  
紙の折り方や定規のはめ方から教わった  
サクサク打ってる先輩の音を聞いて  
わたしも先輩に追いつきたいと思って  
点字板と一生懸命向き合った

自分の名前  
本の感想文  
授業のノート  
それから  
大好きだよってお手紙

日記を書くようになって  
できるようになったことや難しかったこと  
それから  
悔しさとか悲しさとかを  
書くようになった  
点字板は何も言わずに受け止めてくれた

見える子のように遊びたい  
誰にもそんなこと言えないから  
そんなこと言ったら  
言われた方が傷つくってわかってたから  
でも点字板には言えた  
点字板は何も言わずに受け止めてくれた

書くことで  
いろんなことを乗り越えてきた  
嫌だと思う気持ちも  
吐き出すとちょっと冷静になれる  
点字板は何も言わずに受け止めてくれた

自分の気持ちに素直になれなかったときも  
自分の弱さに向きあえなかったときも  
自分を受け入れるまで時間がかかったときも  
点字板は何も言わずに受け止めてくれた

「待ってるよ」という言葉が聞こえた気がした